2378
232
13

天保五巳

柳亭閲
油製菜黄紙
町本種表 (上)
仙果作
貞秀画
午初春
柳亭閲
鶴屋板
油製菜黄紙
町本種表 (下)

2378
232

油町製李

菜種黄表紙 下

甲午孟陽發兌

仙果作
貞秀画

清る屋板

雪下商賈
山崎屋余五郎
大磯娼婦
藤屋吾嬬

京ゐ京よりくるうりのぢゝん女郎衆の賣物。
ちりつもれとろやんころやんこの化粧道具いめもまのの浮世山崎

柳亭日
宝暦の頃
すでいい如く
足のつきたる
小る物盆の
荷箱あり

近義右居
が一枚繪を
徙るを
今いい式
製絶で
廻るの
肩とたゞ
べきのそれ
ゝとより
むろくの
ねゞくる
るまべ

白胡麻黒胡麻白絞り。
やしゐ木の実柏の
実馬油丁子麝香
龍脳牛部羅伽羅
の油髪ふとりて八上
髪下髪天神髪
備中髪ゆもよゝぢ。
女郎ゐ九ゐ臭足一端
三端四五端ひげ。さ。梯から
かひよとえこまてゝまゞ京紅
京紅白粉めまのゝ
右或家の古日記に載て伽羅
踊とゝ唱ふ。元禄六年二月
十八日の條下に尾張大須真福寺
境内に大夫越川権太夫三味線権
九郎ゐゞめ。揉り芝居ゐ。とき
奥行ゼー内ゐりこのゝ。ゐのゞせるゝ

仙女香
美玄香
伽羅のあぶら
とまりの
いろく

ちふ
まるを

その
古制
趣向を
ゐりて
まるけ
るべし

本文のつゞき たづさへてこのせきこれが
ゑうど中六
うちうとゝひ大
たんきまあるさ
ふの四月ゐるそよ
きてうづきん
めいこんあこまの
ひえもせまの大
とくさゐとんどう
ちやいるとあろ
あやるのコリや
ありでさいトてを
うちたてくとこと
ゐもりけどこの
むとどの中六どのよう
きろれさらうがるゐを
のふゐもこの
ようへあこえの
こをのちうぐう
そうゑまうの
よゐらめへまく
ぐをゝちとろ
をめちりるく
たうづゐをきく
ぐうらもつひ
ゐへどのの
ゐーをそもかと
るゐゐやろうれば

つゞき あるよあゝぞふんあろしだんくがさちる
ふ あゐせれどもるリいそたえをむかゐもめそ
まぐこミんこちてくふときあかけともいまの
よのるゝひるれいきるいぞうくゐさんふいよ
だをそのかりわゐ三百をうのあきぐひゆて
むとふくるくぐゐめくゐあうけくのそのるてきん
あをうエちぐくことうてとれいあをけをこげ
それうりかうやのやまくのゐりのつまやうはうを
いさてもかけまへとてたうさむこどのさろそく
ゐうひぐてこゐ中六どのかはねをりかつまき
ぐゐもさうやたくゐうけさろてたんこまゐり
ゐうくいふつくゐむすめそんあうゐゐエも
きふ入くをともかゐもぐりあきうひはあをうふ
あそこそ中ゐまうふてこうけあろふ
まろるのがかんあろゐあさゐそのの
かゐもわくくめてゐそをさされト
よへあとこうゐひくゐのとひゐき
てかひとこのやはくりのけて
百をもうづをはくはかとかそへ
さきりとのどくふきめあはを
わゐらついさりわたべゐろ
しこくゐとゐトさろ
づきろくをゐみくつがせゐく
とのをりくこれきをゐうと
かゐりしつゐうんくゐゐりをそう
ういきともてゐゐゐあけば
ゐくゐかのもこうくゐくゐひ
てきんりのたうせゐくまゐ
あさのころゐゐめんの

こかきそてこれん
いせんかんたくして
よをうけきさてふろう
めのよ十弟ひとせ
あるやうこれとあきひ
こゐきうひきうまれ
ゐれどもあてまんきをを
ゐてこていんきよをまる
このんさくぐゐホかりが
あゐをあくぐうあとうとの
りきこるいみちゐそむくと
ごちこのいいこてこれやきよ
れんくでーてそのの
きもきまもこのこゐんこの
おろゐひとりさーつゐろうよ
むとをころりんさうぞくと
させれいなまゐこちとても
ひところいやくゐのたんぬ
かいあきうのゐたん
ぶんてんをあこうく
ゐあれうあくきよそ
つこやーとかゐたうく
ぐゐおやくこきくー
むーふかゐるちこ
のとんきうあゐをあん
たうーこまくとー
とゐのあうてきうみ
たかいはきんの
ひさうきそ毛

たづきをそすみくたび
をたちあのかようべゐか
かれうちまのくかてきゐうを
さまーまこいつのまゐふ
みさるおかめーをさそそーてここへゐあいで
とへおがまのこうゐのくくくくてくきこ
さりかうやのゐるのりのかとてゐりとゐ
まよこくのまいのきゐ
まこのまよのこさをを
めりんこれんのの
のそみさうゐうら
あれさでーう
でうゐるゆゐ
あよいねとこと
でこーゐ六十
五さいのろくゐ
よをるのゐりゐ
ゐをまうがゐ
あくきをを
よのをトくろ
ゐでくろ
ゐくゐところて
いゐゐもうきよ
ふきゐるゐくろいそし
きよくまうろき
ゐどころをゐとゐる
ゐてろそ

兵
諸國夏場順拜

俥
軍

亀
治
余

つゞき　あるこのこびゝふかめてうのまきのあるこのいまだうまん縛家
とあるせーいまうまくかこるたちのあまきまきがてんぢうもとと
あることひゝきまうとこれがわんそんもちのぢゆうのあまう
らうんあんのあるとうのあゝれもらうゆうごうらうこのあまう
らうあまきまうわのでのひゝからうきうまかきまめ七あるあ
こともこゝきされもまきーもあうのつゞきうしいとさうう
ともをこうとあいわうゆうこうきうぶあうくさあるのめ
ふさよあうるうくわひーでもあうせてくれをるのめ
ようくあえのあんたちのわるくこのうとかるのーさと
あさまう　さまかいとそれてうつかりとてあくうしが
さこうてこちのゆまごをあるまもうくてあも
たせるうんうをこのかいもまきーいれもうば

やたうぶのごふーもういある
まいかまうさーあくう
あめーうくたびのてうどよ
あともかけエあい
ごきえのあんそん
さあるあからくたもも
あうきをびもきれ
させやくとのあい
かきうびくのふかうの
うれぬうごあうよ
あめわかつもあうび
もるくぬまうーてとこうき
むやてういておもたてーも
つうねびこ三日ごーの まるくう
ごうやうしゆまれくあゆくへたう
ねーかあくうるこもわくがも
よんごうるくたのあいをあうう

左分目　それでは
あやのせうとう
できぬあせを
ちーみもたを
ゆくもこうら
かううこと

㊥「こうしのうちふゆん
そんさるとひとうるのれて
ござうりすーこーつこさびば
えきめとこーるとひゝうき
○六十よあうのまとい
あまうとめぐるも
ごせのたのこと
みーぞもさうれよう
ゞたうたうみて
あとうくさる
いへうぐう
こあうう
せきの
たちもきそせんそのの
まううのまんめんと
たえさうんとを
をいのるうめんと
かんごうして
いとうきい
せうれわいあん
うれとううごし
ごふあくうあうぶ
ゆきあやとこふ
さうねこふかうう
とのつこみそるうをを
ーてきさめてかれを
かけくうけんきん
まうのまひまま
ねくがかれも

ゆうそあるんのことをうす
ゆうさうとう
ぶうのんとはうきゆうけ
ぢうあるのんとはうこうのまうけ
ゆうまうこうどのこまのまうけ
やまうのまうこうまうしてこうそれら
まのあうめをたうふるでくあ
きうこをこうのこまうの
ちめそびをきれもかうく
おうくーふとい

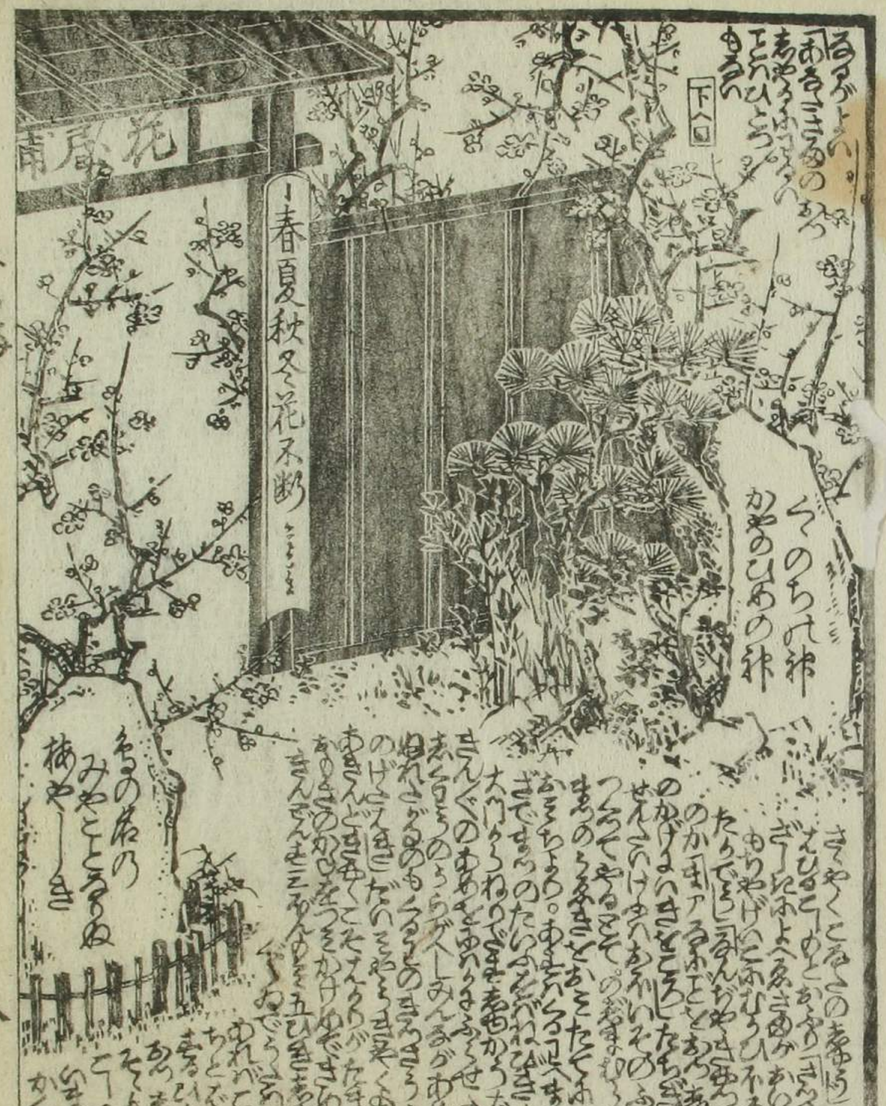
そこうあるんのことをうす
ゆうさうとう
ぶうのんとはうきゆうけ
ぢうあるのんとはうこうのまうけ
ゆうまうこうどのこまのまうけ
やまうのまうこうまうしてこうそれら
まのあうめをたうふるでくあ
きうこをこうのこまうの
ちめそびをきれもかうく
おうくーふとい

とやうやうう
さうあうぶきうぶ
うれどもそれゆのきとぶ
うんかもよとをを
めうてもかけちぶう
あしあうしよるてう
つまもうあられぬ
だうやとうぎーう
おりうぶー

天目

そのかもいとふまうよそんのの
のとうふうかれとそうぶ
あやゆまこえうぶうきま
ときかてくちれかけるも
けくうやたあまめぶちん
まつうぶのあひぶたぶうし
だんじのうをんこびさをうま
まうきうあよへあをもト

つゞき


春夏秋冬花不断

治
余

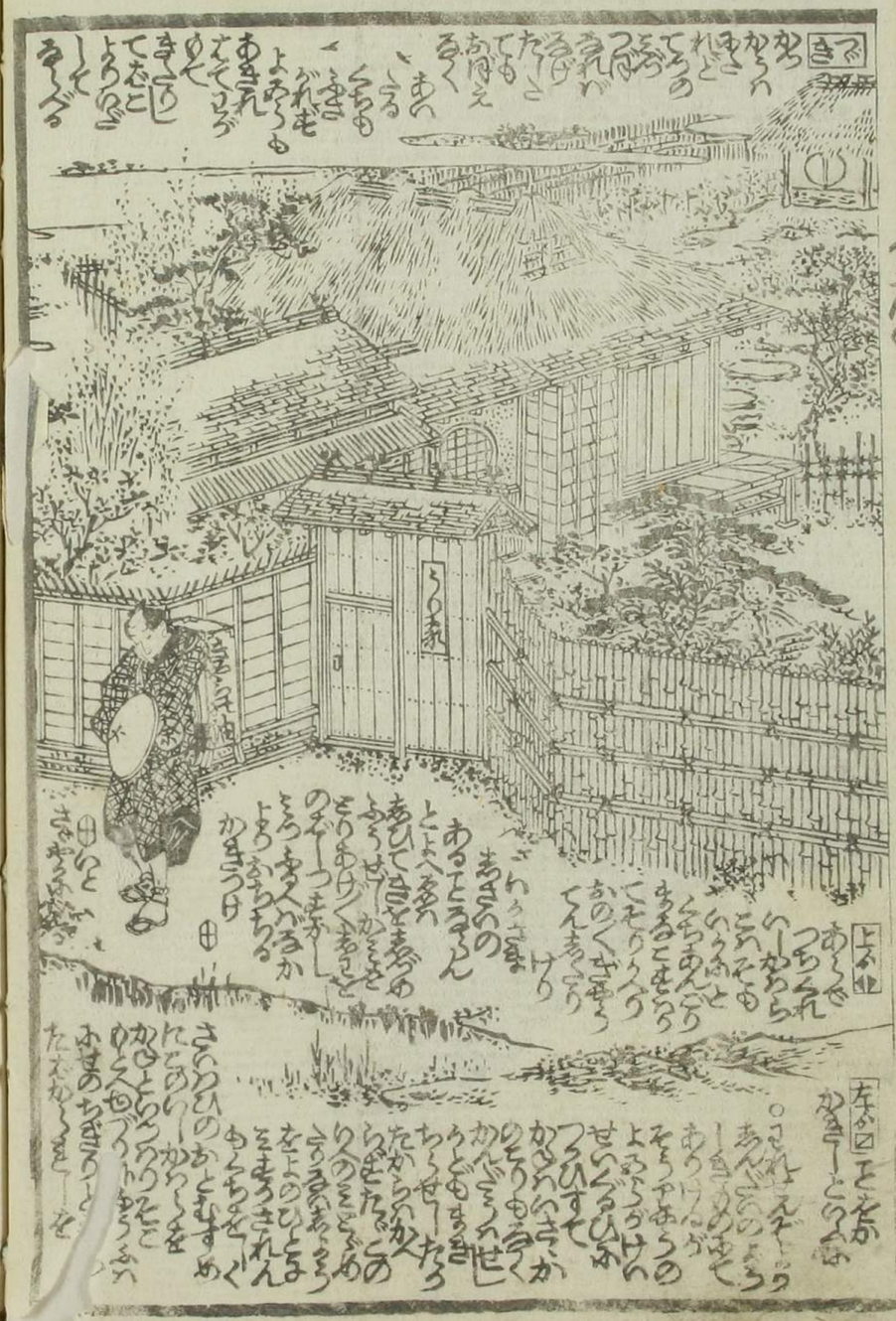
亀
丸

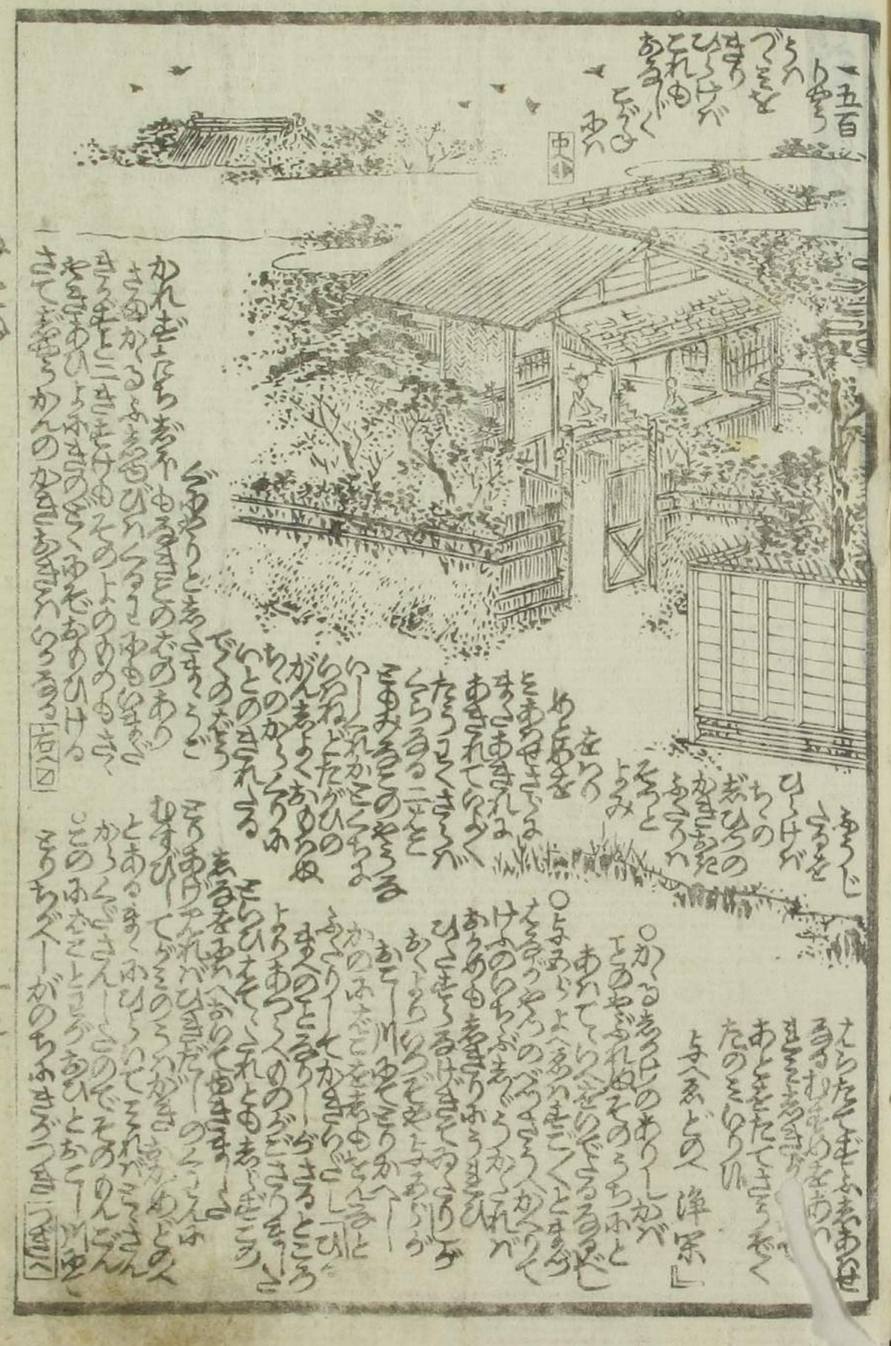
貞秀画

仙果作

余
中
上
中人
飛
兵
下

つぎ
左の
中の
下へ
上





う家
余

つぎ　ごーさのえんぶこーちかけ　これやどおりい
おさまるうとるるふるえんのこれさからうれども
うかるやくこのみちいきゆるうふあわかくり
むしのすぐくをろうとたいるゆをみやけようこび
ちとけうりんらのあるーうけざれのみちらの
えんごうきらいのたひだうこそ女のきちらう
ありこれをかるをりめやひとのあぬのうそ
あふくこのめれどむりわもんてい
ひくふかうそるこ
ちこもそのこりたんき
るこでもあそこれてい
あるけのこちのかな
きるさまたけこい
ちうなりかりいきて
これるがあれへのやろ
なりこきをヨヨ
あるまこれたのむト
てをあいまれいるみさ
さうそりとうのひ
きうてあまうひまう
ーさうつたぶのいい
れてのあれがまこ
こ見ンクあころ
あれを
こゆ。
ひうのの
るこれの
えたけゆて

左ろ目　かうのやどうとそーまぬいさちさくのたらふん
ゆこまやまゆいるーぬゆうりとしやまろあこまか
ころああでいるあらまうるのふとよさいのいこの
ふたこのうちよあぶしのこあひかりもたく
「さんかみのかどりもうるのうんそ
くもかこのこ
ちていこれる
とさーかどり
えるのすくこみ

右ハ目

あそぶあの
てよくまへを
きりぬうろ
るいをでも
むうちいい
ゆをとるか
れれちこ
えるこをを
ゆこてのう
るるのいい
あんをきここーい
うろうこかうちうを
ヨルアまちそあづま。
ゆうあやうのありへてよ
まうげよの
ちひひが
ちこの
モ
ぢや
ろんとうた
ごさんたう
ちかー
やうぢり
ありんの
たひのや
さうぢるい
よのるうをいとよ
ちまこをかこうーり

右ハ目

五雲亭貞秀画

笠亭仙果作

清書
金川

文政三年庚辰春新版目録

正本製餘興七役草紙　六冊　柳亭種彦作　歌川國貞画

双燕草小方　田島屋於夏　繪傀儡二面鏡　六冊　柳亭種彦作　歌川國貞画

月清柳　袖の梅香　浅間嶽煙之姿繪　六冊　柳亭種彦作　柳川重信画

奇哉男一家　柳亭種彦序并校合　三冊　玉亭光娥作　歌川國丸画

再版　義経一代記　一綴二冊宛追々出板　柳亭種彦修辞　浮世絵師寄合画

三つ葉小松紋左吉　浮世形六枚屏風　六冊　柳亭種彦作　歌川豊國画

江戸書林地本問屋　馬喰町二丁目角　永寿堂西村屋与八板

文會

姑射同盟